

# RELATIONS MAGAZINE!

関係人口創出プロジェクト「179リレーションズ」季刊誌  
2026 March vol.18



まちの歴史を紐解く。  
～【特集】厚真100年年表  
ワークショップの事例

## RELATIONS MAGAZINEバックナンバー

2020年春より発行してきたRELATIONS MAGAZINEのバックナンバーはWEBよりご覧いただけます。紙媒体での送付をご希望の方は、お気軽に事務局までお問合せください。

- Vol.10 "リレフェス22"オンライン関係人口フェスティバル開催決定!
- Vol.11 オンライン関係人口フェスティバル"リレフェス22"開催しました!
- Vol.12 持続的な北海道に向けた関係人口を活用した次世代育成事業活動報告書
- Vol.13 地域に関わる若者たちの取組紹介小さなチームとチャレンジが生まれる場づくり。
- Vol.14 地域に滞在すること。～厚真町長期滞在プログラム参加者より
- Vol.15 石狩市浜益×関係人口10年の歩み
- Vol.16 【特集】高校生と地域の青年が未来と普通を考える。
- Vol.17 わかもんだろ、それでいい。～【特集】浜益わかもん会の取組み



Vol.1～12は休眠預金を活用した「北海道未来社会システム創造事業」の助成を受けて作成しました。

## 関係人口創出プロジェクト「179リレーションズ」とは

179リレーションズでは、北海道各地の"地域に関わる「入り口」"をつくります。ひとつひとつのまちや活動に注目し、住んでいる場所や世代を超えて誰もが対等な関係性を大切にしながら、若者をはじめとする次世代の担い手が育ち、変化に強い持続的な地域がつくられていくことを目指します。

特に以下の項目を重点項目として展開しています。

- ① 「関係人口」創出により、地域外の若手人材を地域の活動へ巻き込みます。
- ② 地域内の若者が、主体的に展開する様々な活動と連携します。
- ③ 関係人口創出WEBマガジン「179RELATIONS.net」から参加する若者のリアルな声をお届けします。

季刊誌「RELATIONS MAGAZINE」では、179RELATIONSの最新情報やホットな話題をお届けします。みなさんとの連携のきっかけになればと思いますので、気になる情報や活動がありましたらお気軽にお問合せください。



## 運営団体「NPO法人ezorock」とは



“ezorock”は、「社会を揺り動かす」という理念のもと、2000年に行われた「RISING SUN ROCK FESTIVAL」における環境対策活動をきっかけに2001年4月に設立されました。青年層のネットワーク拡大とともに、北海道の地域課題に対して、若者のアイデアやパワーを届ける事業を展開。活動を通して若者が自らの人生と社会を切り開いていく機会を作り出しています。

2024年度実績  
活動日数 327日 人数のべ1,808人 地域 14市町村

関係人口創出プロジェクト「179リレーションズ」季刊誌

## RELATIONS MAGAZINE!

PRODUCED BY ezorock

〒064-0809 札幌市中央区南9条西3丁目1-7

TEL/FAX 011-562-0081

E-mail info@ezorock.org

WEB <https://www.ezorock.org/>

<https://www.facebook.com/ezorock/>

<https://lin.ee/ugUhj0g>

<https://twitter.com/ezorock/>

<https://179relations.net/>



<https://www.ezorock.org/>



# まちの歴史を知る 対話型ワークショップ

2026年11月1日、厚真町で文化祭ウィークが始まりました。初日のこの日実施されたのは、厚真の過去100年の年表を文化祭を訪れた住民の方と即興で作っていきワークショップです。できあがった年表の一部と共にご紹介します。



**POINT1**  
地図と仕事  
この日、多くの話題の中心にあったのが「地図」。地形図から市街地の地図まで、「ここに道があって木を運んでいたんだ」「このお店に通っていたなあ。今は形を変えて経営されているよ」等今と過去を繋ぐ話題が生まれました。

**POINT2**  
大相撲と皿  
この日出来上がった100年年表の中心には1986年に「日本大相撲厚真場所」開催の話題がありました。巡業を覚えている方からは出る出るご自宅でのエピソード、街中での様子など様々な話題が飛び出しました。まちの一大イベントだったことが伺えます。

**POINT3**  
わたしがつくった！  
住民のみなさんとお話の中で印象的だったのは「これ、私が作ったんだよ」「もう誰にも見てもらえないと思っていた」という言葉です。当たり前目にしているものも誰かが想いを込めて作っていたり、ひとつひとつがまちを形作る住民の歴史です。

人の名前がたくさん！  
今は当たり前のイベントも必ず最初がある  
この日もまた、歴史の一部に

**POINT4**  
えー、知らなかった！  
お話を伺っていると隣で聞いていた住民の方からも「そうなの!？」等の声。住民同士の情報共有の場にもなりました。



**参加者の声 (大学生)**  
数か月前までほとんど知らなかった町なのに、町の人と一緒に歴史を振り返り、様々な体験やエピソードを聞くうちに、厚真町がぐっと身近に感じられました。町の人同士が「どうだったかな」と思い出しながら語り合う姿が印象的でした。

**Date**  
日時：2025年11月1日(土)  
場所：厚真町総合福祉センター  
人数：関係人口5名  
厚真町民30名以上  
エピソード：50以上

# 100年年表ワークショップ に至るまで

実は100年年表ワークショップは今年度のひとつの集大成。5月から毎月まちを訪れる若者たちが厚真を知り、企画を作り上げてきました。

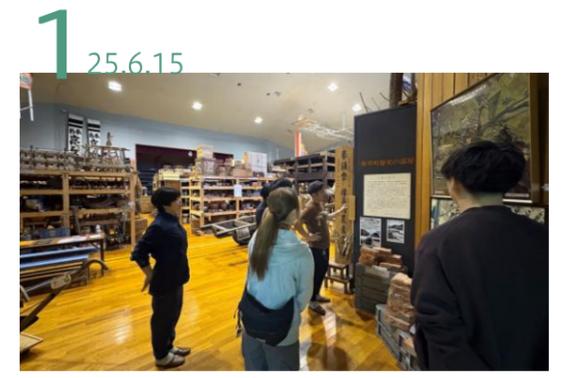


1年間のプロジェクトの中で、たくさんの厚真町民の方と出会い、まちのことをたくさん教えていただきました。100年ワークショップにはそれまでの積み重ねの表現のひとつです。

まちのいいところや魅力はたくさんインターネット上でも発信されており、町外からも知ることができます。でも、まちが変化してきたターニングポイントやそこで暮らしている人たちの暮らしや想いに簡単に触れることはできません。今目のまえて見えていることにはどんなことにも誰かが汗を垂らして作り上げ、賛成も反対もありながらたくさんの想いがこもって出来上がっていることを実感するプロジェクトになりました。



この日は町内見学。まちのターニングポイントを教えてくださいました。



まずは厚真の歴史を知る日。資料館で当時の暮らしを物語る地図や資料を発見しました。



まち歩きをした日も。街角で出会った方に厚真のことを聞きました



9月には北海道教育大学函館校地域づくり支援実習生が10日間滞在し、まちの歴史をインタビュー



振り返りの日。たくさんの住民の顔とお話をありありと思い出します。

**参加者の声 (社会人)**  
私が厚真町に関わるようになったのは、震災でなくなった厚真町が、今かわる変わりで厚真町として存在していることに驚きました。歴史や人々の暮らしを学ぶことは、自分たちの未来を考える上で大切なことだと思います。また、本プロジェクトには当団体が石狩市浜益で取り組んできた地域の歴史に着目した活動から着想を得ています。地域住民と関係人口が混ざり地域の過去を再認識し、未来を考える取り組みです。これからもまちの歴史から地域づくりのヒントを見つけていきたいと思っています。(水谷)

## 編集後記

厚真町に関わり始めたのは2018年9月8日でした。北海道胆振東部地震の2日後のことです。それから厚真にたくさんの若者たちと通い、地域の変化やまちづくりについてたくさんのことを教えていただきました。今年はこれまでになく、住民の方々とお話し、厚真町が繋がり強い小さなまちであり、たくさんの方の暮らしの歴史が詰まっている場所であることを再認識させられました。また、本プロジェクトには当団体が石狩市浜益で取り組んできた地域の歴史に着目した活動から着想を得ています。地域住民と関係人口が混ざり地域の過去を再認識し、未来を考える取り組みです。これからもまちの歴史から地域づくりのヒントを見つけていきたいと思っています。(水谷)